大豆ニュース　No.2
～出芽期から開花前の栽培管理～

令和　6年　6月 10日
巻農業普及指導センター

1　中耕・培土

（1）中耕・培土の効果

○ 雑草防除　➡ 雑草を枯らす
○ 根系の発達　➡ 不定根の発生による生育促進、夏季干ばつ対策
○ 倒伏防止　➡ 土と不定根で茎を支える
○ 表面排水　➡ 作畦で排水時の水路を確保

➡ 収量・品質の向上

夏季干ばつ対策の畝間かん水が困難なほ場は、
培土の実施により根系を発達させておくことで干ばつ害（落花、落莢、青立ち等）を軽減できます。

（2）中耕・培土の時期と方法

表1　中耕・培土時期のめやす・程度

	播種後日数	大豆の生育	培土の位置（図1）
1回目	20～25日頃	第2複葉展開期頃 主茎長12～15cm	子葉節まで
2回目	35～40日頃 （1回目から2週間後）	第5複葉展開期頃 主茎長20～30cm	初生葉節まで

※　雑草の発生が早い場合や多い時は「めやす」に関係なく直ちに行いましょう。
※　**中耕・培土の作業晩限は開花始め（エンレイ：7月20日頃、里のほほえみ：7月25日頃）。**
これ以降は断根により生育抑制や落花、落莢を招きますので行わないでください。

（3）作業時のポイント

○ 出芽が不揃いなほ場では、生育の早い大豆に合わせて中耕を行い、培土の高さは低めにします。

○ 最終培土時の高さは15cm程度（コンバイン収穫に支障のない高さ）にとどめましょう。

○ 株元が凹むと、培土効果が発揮されないうえ、株元に水が溜まり病害を招く恐れもあるため、茎の元までしっかり覆うように培土しましょう。（図2）

○ 中耕・培土後は、畦間の溝を排水溝や周囲明渠に連結し、排水を促進しましょう。（図3）

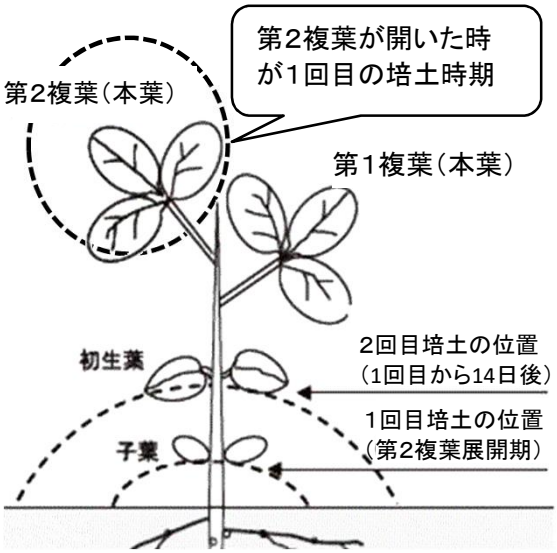


図1　培土の位置のめやす

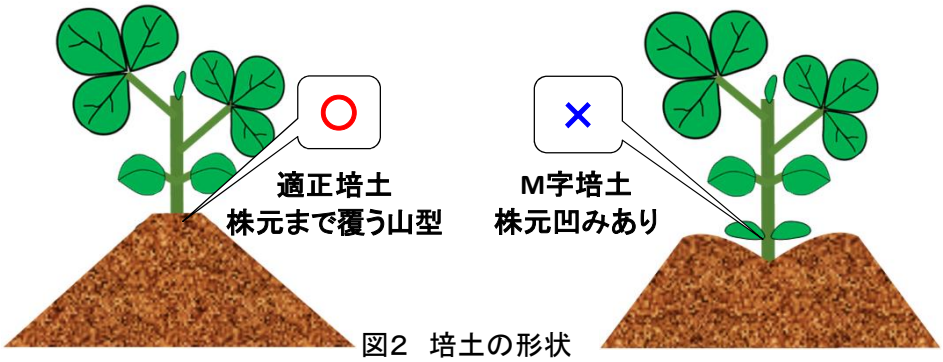
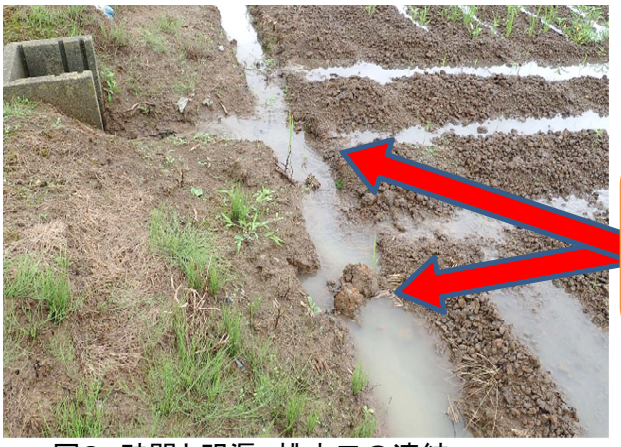


図2　培土の形状



土塊が崩れて排水を阻害
地表排水をスムーズにするため、畦間と明渠、排水溝の連結を必ず確認しましょう！

図3　畦間と明渠、排水口の連結

2　培土時の追肥

○ 葉の黄化や生育不良などの症状が見られる場合は、培土時に速効性肥料を窒素成分で 10a当たり1～2kg(例:硫安で5～10kg)程度、施用してください。

○ 低地力が原因で収量が低いほ場では、2回目の培土時に、60日タイプのシグモイド型被覆尿素肥料を窒素成分で6～8kg/10aを追肥し、培土により土壌と混和してください。<u>莢数や粒数が多くなり増収が期待できるとともに、しわ粒の軽減に効果的です</u>。

(基肥に緩効性肥料を施用した場合は重複施用になるため施用しないでください)

表2　シグモイド型被覆尿素肥料の追肥が収量構成要素に与える影響(作物研究センター)

	総莢数 (莢/㎡)	有効莢数 (莢/㎡)	1莢粒数 (粒)	粒数 (粒/㎡)	百粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)
追肥なし	562	545	1.74	950	31.0	293
追肥あり	595	574	1.79	1,025	31.5	321

注1)収量水準が低い(坪刈収量340kg/10a未満≒実収255kg/10a未満)ほ場12地点のデータより
注2)追肥には60日タイプのシグモイド型被覆尿素肥料を窒素成分で6kg/10a培土時施用。
注3)H19～21年の試験データ

3　除草剤による雑草防除

作業の遅れ等により中耕・培土で除草が困難な場合や除草しきれない場合は、**雑草の草種に応じた生育期除草剤を散布**してください。

～　農薬使用の際は、使用時期、使用方法を厳守し、適正に使用してください　～

目標収量180kg/10a、3等級以上比率70%を目指し、
それぞれの管理対策を確実に実践しましょう！